

極秘

1

海軍

第一

特別輸入ニ關スル件

序

- 一 今次陸海軍ヨリ要望ノ特別輸入ハ資金繰リ及船腹對策ヲ講ジ可及的急遽ニ實施スルコト
- 二 昭和十五年度物資動員計畫、貿易計畫、生産力擴充實施計畫等ハ差シ當リ之ヲ變更セザルコト
- 三 將來物動計畫等ニ根本的改訂ヲ加フル情勢ヲ豫想セラルル場合ハ可及的早期ニ充分ナル打合ヲ爲シ準備ニ萬遺憾ナキヲ期スルコト

第二 特別輸入ニ關スル件

一 曩ニ國際情勢ノ變轉ニ處シ昭和十五年度要輸入額中ノ一部繰上輸入ヲ行ヒタル處（昭和十五年六月四日閣議決定）時局ニ鑑ミ今回更ニ別記ノ特別輸入ヲ行フモノトス

前項ノ特別輸入ハ九月末日迄ニ之ヲ行ヒ買付ノ時期、數量等ニ付テハ關係各廳ニ於テ緊密ナル連絡ヲ圖ルモノトス

二 右特別輸入ニ要スル資金ハ昭和十五年度貿易計畫ニ定メラレタルモノノ外別途輸入力増強ノ特別措置ヲ講ジ之ヲ調達スルコトトシ昭和十六年度ニ於テ之ガ調整ヲ行フモノトス

三 右ノ特別輸入ニ關聯シ速カニ國際情勢ノ變化ニ即應シ得ル如ク生産、配給ノ統制ヲ強化シ、消費規正ヲ行ヒ國內重要物資ノ保有増加ヲ圖ルモノトス

資源名	數量(吨)		金額(千圓)		合計	備考
	A	B	A	B		
屑鐵	1	10000	1	1600	1600	
特殊鋼	2000	3000	4000	10000	14000	
モリブデン鐵	1	500	1	2100	2100	
コバルト	100	1	1400	1	1500	
電氣銅	5000	28000	6000	33600	39600	
鉛	6380	10000	2300	3600	5900	
亞鉛	1	12000	1	8400	8400	
錫	1300	1	5850	1	5850	
アンチモン	1	200	1	300	300	
水銀	20	103	520	2678	3198	
石綿	150	1300	100	1930	2030	
雲母	50	60	400	480	880	

別記

取得不能ノ場合ハ
特殊鋼ヲ輸入ス

極秘

7	6	5	4	3	2	1	小番號
二	二	二	二	二	二	二	部數
海軍大臣	陸軍大臣	大藏大臣	厚生大臣	內務大臣	拓務大臣	外務大臣	內閣總理大臣
							原議用
							配付
							備考

特別輸入
 二件
 關スル
 件
 及
 特別輸入
 三件

(A)

(B)

~~20 19 18 17 16 15~~ 14 13 12 11 10 9 8

二 二 二 二 二 二 二

34	33	20	19	18	17	16	15	(B)	法	書	鐵	遞	商	農	文	司
拓務大臣	逓信大臣	商工大臣	農林大臣	海軍大臣	陸軍大臣	大藏大臣	外務大臣		制	記	道	信	工	林	部	法
									局	官	大	大	大	大	大	大
									長	長	臣	臣	臣	臣	臣	臣
									官		臣	衆	臣			

通牒
添附
ス

(A)
20. 19. 18. 17. 16. 15.

企畫
印
山

閣下第 三〇一號

案 起

昭和十五年九月二十七日

閣議決定

昭和十五年九月

月二十七日施行

昭和 年 月 日

內閣總理大臣 齋藤

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

齋藤

陸軍大臣

齋藤

文部大臣

梅

遞信大臣

坊

厚生大臣

齋藤

內務大臣

齋藤

海軍大臣

堀

農林大臣

齋藤

鐵道大臣

坊

星野
企畫院總裁

齋藤

大藏大臣

齋藤

司法大臣

齋藤

商工大臣

齋藤

拓務大臣

齋藤

別紙企畫院總裁上申

外交轉換ニ伴フ應急對策要目

右閣議ニ供ス

通牒案(一)

昭和十五年九月二十七日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十五年九月二十七日上申

(企畫院上申 第二〇六號) 外交轉

換ニ伴、應急對策要目ニ関スル件上申

、通閣議決定相成候

通信大臣

務務大臣

靖子生大臣

興亞院總裁

對滿事務局總裁

內閣情報部長

密(右列)

中國書局印

外交轉換三伴，應急對策要目別紙，
通閣議決是相成候條依命此段及
通牒候

(白井納)

企畫院上申第二〇六號

昭和十五年九月二十七日

企畫院總裁 星野直樹



内閣總理大臣 公爵 近衛文麿 殿

外交轉換ニ伴フ應急對策要目ニ關スル件

外交轉換ニ伴フ應急對策ニ關シ別紙ノ通閣議決定相成様致度本院
官制第一條第一項第一號ニ依リ此段及上申候

内

閣

極秘

外交轉換ニ伴フ應急對策要目

- (1) 物動計畫ノ改訂及生産力擴充計畫ノ合理的再編成
- (2) 專業對策トシテノ國民勞務活用再編成施設ノ整備
- (3) 物資回收ノ強化徹底
- (4) 消費規正ノ強化
- (5) 技術、物資、機械等ニ關スル獨伊ノ活用
- (6) 金融ノ計畫的統制ノ急速實施
尙當面ノ金融梗塞狀態ノ緩和措置トシテ(イ)日銀貸出ノ促進(ロ)預金部
資金ノ放出(ハ)運轉資金回收緩和ノ措置ヲ講ズルコト
- (7) 船舶對策ノ急速實施
 - (イ) 配船ノ全體的管理體制ノ至急整備
 - (ロ) 獨乙船舶ノ急速利用

- (7) 和蘭等第三國船舶ノ獲得利用ニ對スル措置
- (8) 貿易對策ノ改訂
 - (イ) 獨伊ニ對スル貿易ノ促進
 - (ロ) 東亞共榮圈ノ貿易ノ增強
 - (ハ) 輸出物資ノ轉換
 - (ニ) 第三國利用、輸出入先ノ轉換等輸出入對策ノ樹立
- (9) 國內纖維資源ノ補給ニ重點ヲ置ク生糸政策ノ轉換
 尙當面帝蠶ノ生糸買上資金ニ對スル強制融資ヲ擴大スルコト
- (10) 外交轉換ニ對スル輿論指導

閣甲第三〇四號 房

案起

昭和十五年十月五日

決定

昭和十五年十月五日

施行

昭和十五年十月五日

內閣官房總務課長

內閣書記官



昭和十五年十月五日

內閣官房總務課長

企畫院總裁官房文書課長

外務省文書課長

大藏省

陸軍省副官

海軍省

農林省 農林書文書課長

商工省

遞信省

鐵道省

拓務省

厚生省

興亞院總裁官房書記官

對滿事務局庶務課長

宛（各通）

日滿支經濟建設ニ關スル件

標記ノ件本月三日附内閣閣甲第三〇四號ヲ以テ内閣書記官長ヨリ貴省大臣（貴院總裁）宛依命通牒セラレ候處右ノ中第一基本方針五、但シ書中「海南島及南支沿岸」ハ「海南島等南支沿岸」ノ誤記ニ付至急訂

正方可然御取計相煩度

依野地手書版

日滿支經濟建設 = 國志件 (通標先)

外大陸地畧高進鉄板學

興對滿

但此蓋度不官即直接送予者多也。

十月三日

閣下第三四號

案起

昭和十九年十月三日

閣議決定

昭和十九年十月三日

裁可

昭和

年

月

日

行

昭

和

年

月

日

內閣總理大臣 友

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

友

陸軍大臣

友

文部大臣

橋

遞信大臣

若

厚生大臣

友

內務大臣

友

海軍大臣

友

農林大臣

友

鐵道大臣

友

星野
企業院總裁

友

大藏大臣

友

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

友

別紙企畫院總裁上申

日滿支經濟建設ニ関スル件

昭和十五年十月三日

外務大臣 内閣書記官長

企画院總裁宛

依命通牒

（空欄）

昭和十五年十月三日申（企画院上申）日満支

經濟建設ニ関スル件申（通閣議決定

相成候 別紙

昭和十五年十月三日

内閣書記官長

外務大臣
 大藏大臣
 陸軍大臣
 海軍大臣
 農林大臣
 商工大臣
 逓信大臣
 鐵道大臣
 拓務大臣
 厚生大臣

家(為通)

(白井晴)

與亞院總裁

對滿事務局總裁

日滿支經濟建設之關係
別紙一通
閣議決定相成候條
依命此段及
通煤候



主任 第一部 秋永 調査官

企畫院上申第二〇八號

昭和十五年十月三日

企畫院總裁 星野直樹



內閣總理大臣 公爵 近衛文麿 殿

日滿支經濟建設ニ關スル件

標記ノ件別紙日滿支經濟建設要綱ノ通閣議決定相成様致度
本院官制第一條第一項第一號ニ依リ此段及上申候

內閣

極秘

日滿支經濟建設要綱（朱）

（昭和二十三年）

東亞ノ新秩序ヲ建設シ世界永遠ノ平和ヲ確保スベキ皇國ノ使命ヲ具體的ニ達成スルヲメニハ我國内體制革新ノ過程ト生活圈ノ擴大編成ノ過程トヲ綜合一體的ニ前進セシメ以テ國防國家ヲ速ニ完成スルヲ要ス從テ皇國ノ基本的經濟政策ハ次ノ三大過程ノ綜合計畫性ノ上ニ確立セラ
ルコトヲ要ス

一、國民經濟ノ再編成ノ完成

二、自存圈ノ編成強化

三、東亞共榮圈ノ擴大編成

蓋シ生活圈擴大編成ノ爲ニハ皇國ノ國防並ニ地政學的地位ニ基キ日、
滿、北支、及其ノ前進據點トシテ南支沿岸特定島嶼蒙疆ノ地域ヲ有機的一體タル自存圈トシテ政治、文化、經濟ノ綜合的結合ヲ強化編成スルト共ニ國防經濟ノ完成ヲ促進補充スル爲中南支、東南アジア及南方諸地域ヲ包含スル東亞共榮圈ヲ確立スル

コトヲ要ス

而シテ經濟政策適用ノ方式ハ皇國ト生活圈内ニ於ケル國家又ハ地域及
民族トノ結合ニ關スル根本政策ト調整シツツ夫々民族ノ生活段階ニ適應
セシムル様特段ノ工夫創造ヲ要ス

第一 基本方針

- 一、日滿支經濟建設ノ目標ハ概ネ皇紀二千六百十年迄ニ日滿支ヲ一環トスル自給自足的經濟態勢ヲ確立スルト共ニ東亞共榮圈ノ建設ヲ促進シ以テ世界經濟ニ於ケル地位ヲ強化確立スルニ在リ
 - 二、日滿支經濟建設ノ指導精神ハ八紘一字ノ大精神ニ基キ皇國ヲ中心トスル日滿支三國ノ一體的協同ニ依リ國防經濟ヲ確立シ共存共榮、國民全般ノ福利ヲ増進スルニ在リ
 - 三、皇國ハ日滿支經濟建設ノ起動力タルニ鑑ミ國民ノ氣魄ヲ昂揚シ國內態勢ヲ革新シ國力ノ擴充ニ力メ以テ滿支ノ經濟建設ヲ指導育成ス
 - 四、滿洲國ハ皇國トノ不可分關係ヲ益鞏化シツツ自存圈ノ確立ヲ主眼トシ重要基礎産業ノ急速ナル整備發展ヲ圖ル
- 特ニ科學、技術ノ劃期的振興ヲ圖リ又先驅工業ノ開拓ニ任ス

- 五、支那ハ日滿ト協力シ資源ノ開發、經濟ノ復興ヲ圖ル而シテ北支蒙
疆ハ自存圈ノ確立ヲ主眼トシ交通及重要産業ヲ開發シ中南支ハ物
資交易ノ圓滑、重要資源ノ開發ニ重點ヲ置キ東亞共榮圈ノ確立ニ
寄與ス但シ海南島及南支那岸特定島嶼ハ自存圈ノ前進據點トシテ其ノ開發
六、自存圈内ニ於ケル國防物資ノ組織的連帶貯藏ヲ圖リ以テ國防力ノ
保全ニ努ム
- 七、日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ
綜合計畫後帯ヲ整備ス

第二 部門別方針

日滿支三國ノ産業分野、勞務、金融、貿易、交通等ノ政策ニ關スル基本方針ハ左ノ如ク概定ス

一 産業配分

イ 皇國ハ今後主トシテ精密工業、機械工業、兵器工業ニ重點ヲ置キ之カ劃期的振興ヲ圖リ、其ノ他ノ重工業、化學工業及鑛業ハ自存圏内ニ於テ適地適業ノ主旨ニ依リ之ヲ振興ス

輕工業就中織維工業、雜工業ハ計畫的ニ整理シ逐次之ガ大體移動ヲ行フト共ニ大體資本ヘノ移管ヲ考慮ス

農業ニ關シテハ土地制度ヲ改革シ經營ノ科學的刷新ヲ爲シ農家ノ安定向上ヲ圖リ國民主食ヲ確保スルト共ニ農村人口ノ定有ヲ策ス水産業ハ依然世界第一位ヲ保持スル如ク益々其ノ發展ヲ圖ル林政ノ統一刷新ヲ圖リ森林資源ノ合理的活用ト其ノ保續ヲ圖ル

口 滿洲國ハ今後特ニ鑛業及電氣事業ノ劃期的振興ヲ圖リ日滿間適地適業ノ主旨ニ依リ重工業及化學工業ノ振興ニカムルト共ニ一部重工業原材料ヲ皇國ニ供給ス尙機械工業並兵器工業ハ國防上ノ要求ヲ充足スル限度ニ於テ之ヲ興ス

輕工業ハ國內ノ需要ニ適應シ之ヲ興ス
農業ニ付テハ其ノ日滿支ノ食料飼料補給基地タルト世界ニ對スル特種農業資源ノ供源タルニ鑑ミ農地ノ開拓、農法ノ改善合理化ヲ行ヒ徹底的ニ農產物ノ増產ヲ期ス

尙農業開發ニ當ツテハ皇國農業開拓民ノ入植ヲ促進シ、其ノ中核
タラシム

製鹽業、畜産並林業ニ付テモ右ニ併行シ之カ劃期的振興ヲ圖ル
ハ 支那ハ今後鑛業、製鹽業ノ劃期的振興ヲ圖リ工業原料ノ大量生産ヲ行ヒ日滿經濟建設ノ基礎確立ニ寄與スルト共ニ適地適業ノ主

旨ニ依リ一部重工業及化學工業ヲ建設シ日滿産業ヲ補強ス
輕工業ニ付テハ皇國産業ノ發展相梯ニ照應シツツ相互ノ調整ヲ圖
リ之カ土着資本ヲ中心トスル發展ヲ圖ル
農業ニ付テハ特ニ基礎的施設ノ整備ニ力メ農業經營ノ改善、合理
化ヲ圖リ國民主食ノ確保ニカムルト共ニ棉花及特産物ノ増産ヲ圖
ル

二 勞 務

國防經濟ニ於ケル國民ノ勞務及技術生産性ノ地位ノ重要性ニ鑑ミ勞務技術ノ體制ニ劃期的革新ヲ加フルト共ニ民族協同ノ基礎ノ上ニ日滿支勞務計畫ヲ確立シ立地的統制並ニ再配置ヲ爲ス

イ 皇國ハ勞務技術ノ新體制ヲ確立シ勞務者(一)心身ノ練成、科學教育ノ振興、勞動生産性ノ高度化、技術者及技能者ノ養成ニ力ムル

ト共ニ滿支經濟建設ノ指導援助ヲナス

ロ 滿洲國ハ産業開發ニ必要ナル技術者及技能者ヲ皇國ニ求ムルト共ニ自國內ニ於テモ之カ養成制度ヲ確立ス

内 鮮人開拓民ノ計畫的入植ヲ圖ル、一般勞務者ニ付テハ北支勞務者ノ計畫的入滿ヲ圖ルト共ニ國內ヨリノ充足方策ヲ確立シ特ニ鑛工業生産ニ於ケル勞務管理ノ刷新確立ニ努ム

ハ 支那ハ産業開發並ニ經濟復興ニ必要ナル技術者及技能者ヲ皇國

ニ求ムルト共ニ自國內ニ於テモ之ガ養成ニ努ム
一般勞務者ニ付テハ其ノ安定向上ノ方策ヲ講ズルト共ニ滿洲國產
業開發ニ必要ナル供給ヲ爲ス

三 金融

國防經濟完遂ノ爲ニハ金融ノ基礎ヲ回收ノ確實性ヲ中心トスル信用
カコトナリ
置
家トシテ所要ナル物資ノ資及量ノ確保ヲ可能ナラシ

ムルコトヲ主眼トスル如クニ金融理念ノ轉換ヲ行フ

イ 日滿支ヲ通スル産業計畫ニ照應シ之カ實施ヲ可能ナラシムル資
金計畫ヲ樹立シ且之ヲ實行スヘキ金融機構ヲ整備ス

ロ 今後技術ノ進歩産業分野ノ設定等ニ伴ヒ企業施設ノ轉換ヲ要ス
ルモノ多カルベキニ顧ミ又國防物資ノ組織的連帶貯藏ヲ行フニ應
ジ之ガ爲ノ金融上ノ仕組ヲ整備ス

ハ 資金ノ調達ハ原則トシテ三國ノ蓄積ニ依ルコトトシ之ガ爲各國
ニ於ケル蓄積ノ増加及其ノ活用ヲ圖ル但シ今後當分ノ間國防生産
力充實ノ爲メノ資金ハ皇國ヨリ之ヲ援助ス尙東亞新秩序建設ノ主
旨ニ反セサル限り外國資本ノ利用ヲ圖ル

ニ 外國爲替ニ付テハ之ガ統制ノ目標ヲ海外拂ノ節約ニ置クコトヲ
改テ外ヨリスル國防物資ノ獲得ヲ確保スルコトヲ目標トシ外國
爲替資金ハ日滿兩國ハ共同ニ之ヲ運用シ支那ニ付テモ能フ限り日
滿ト綜合的ニ運用スル如ク措置ス尙進ンテ皇國ヲ東亞共榮圈ノ金
融及決済ノ中心地タラシムル様施策ス

ホ 日滿支三國間ニハ國際決済上所要ノ協定ヲ爲シ三國經濟ノ互助
連關性ヲ強化ス

ヘ 支那ニ於ケル幣制ニ付テハ皇國ノ指導性ヲ保持スルコトヲ原則
トシテ情勢ノ推移ニ應ジテ善處ス

四 交 易

從來ノ商業的貿易理念ヲ改メ皇國ヲ中心トスル東亞共榮圈ヲ一體トセル生産經濟主義ニ基ク貿易政策ヲ確立シ世界經濟ニ於ケル其ノ地歩ヲ確保ス

イ 日滿支三國間ニ於テハ相互ニ必要ナル物資ノ優先的交流ヲ圓滑確實且敏活ナラシム

ロ 對第三國又ハ他ノ集團トノ關係ニ於テハ日滿支一體トシテ物資ノ交易ヲ國別又ハ集團別ニ確立シ日滿支ノ生産ニ必要ナル物資ノ獲得ヲ確保シ内部的ニ之ガ配分調整ヲ圖ル

ハ 日滿支以外ノ東亞共榮圈内ノ諸地域トノ關係ハ相互ニ優先的ニ必要物資ノ確保ヲ目的トスル貿易協定ヲ爲シ進ムテ日滿支ト一體的關係ニ立ツ如ク指導ス

五 交 通

日滿支經濟ノ一體化ヲ促進スルト共ニ國防上ノ要求ニ合致セシムル爲メ、三國相互間ノ交通、通信關係ヲ飛躍的發展セシムベク船舶、港灣、鐵道ノ整備擴充ヲ圖ルト共ニ、海陸運輸施設ノ有機的連絡ヲ促進シ、航空ノ一元的統制連絡、電氣通信施設及放送施設ノ整備擴充等ニ努ム尙大陸ニ於ケル交通施設ノ劃期的擴充ヲ期ス

イ 皇國ハ日滿支間交通上ニ於ケル指導的使命ヲ充足スルト共ニ東亞ノ海運ニ絶對的優位ヲ占メ更ニ運ブテハ世界的發展ヲナス爲メ日本船舶ノ飛躍的増加ヲ圖ル

ロ 滿洲國ニ於テハ國防上並ニ産業開發計畫ノ促進ノ見地ヨリ急速ナル交通通信施設ノ擴充ヲ圖ル

ハ 支那ハ經濟ノ復興並産業開發促進ノタメ交通通信施設ノ擴充ヲ圖ルト共ニ内河水運ノ發達ニ力ム

北支蒙疆ニ於ケル交通通信ニ關シテハ國防上ノ見地ヨリ日滿トノ
關係ヲ特ニ緊密ナラシムルト共ニ急速ナル其ノ擴充ヲ圖ル
ニ 東亞ニ於ケル交通通信ノ自主的地位ヲ確保スル爲第三國權益ヲ
逐次我勢力下ニ把握スルコトニ努ム

極秘

日滿支經濟建設要綱

昭和 一五 一〇 三
閣議 決定

東亞ノ新秩序ヲ建設シ世界永遠ノ平和ヲ確保スベキ皇國ノ使命ヲ具體的ニ達成スルタメニハ我國內體制革新ノ過程ト生活圈ノ擴大編成ノ過程トヲ綜合一體的ニ前進セシメ以テ國防國家ヲ速ニ完成スルヲ要ス從テ皇國ノ基本的經濟政策ハ次ノ三大過程ノ綜合計畫性ノ上ニ確立セラルルコトヲ要ス

一 國民經濟ノ再編成ノ完成

二 自存圈ノ編成強化

三 東亞共榮圈ノ擴大編成

蓋シ生活圈擴大編成ノ爲ニハ皇國ノ國防並ニ地政學的地位ニ基キ日、滿、北支、蒙疆ノ地域及其ノ前進據點トシテ南支沿岸特定島嶼ヲ有機的一體タル自存圈トシテ政治、文化、經濟ノ綜合的結合ヲ強化編成スル

ルト共ニ國防經濟ノ完成ヲ促進補完スル爲中南支、東南アジア及南方
諸地域ヲ包含スル東亞共榮圈ヲ確立スルコトヲ要ス
而シテ經濟政策適用ノ方式ハ皇國ト生活圈内ニ於ケル國家又ハ地域及
民族トノ結合ニ關スル根本政策ト調整シツツ夫々民族ノ生活段階ニ適
應セシムル様特段ノ工夫創造ヲ要ス

第一 基本方針

- 一 日滿支經濟建設ノ目標ハ威ネ皇紀二千六百十年迄ニ日滿支ヲ一境トスル自給自足的經濟態勢ヲ確立スルト共ニ東亞共榮圈ノ建設ヲ促進シ以テ世界經濟ニ於ケル地位ヲ強化確立スルニ在リ
- 二 日滿支經濟建設ノ指導精神ハ八紘一字ノ大精神ニ基キ皇國ヲ中心トスル日滿支三國ノ一體の協同ニ依リ國防經濟ヲ確立シ共存共榮、國民全般ノ福利ヲ增進スルニ在リ
- 三 皇國ハ日滿支經濟建設ノ起動力タルニ鑑ミ國民ノ氣魄ヲ昂揚シ國內態勢ヲ革新シ國力ノ擴充ニ力メ以テ滿支ノ經濟建設ヲ指導育成ス
特ニ科學、技術ノ劃期的振興ヲ圖リ又先驅工業ノ開拓ニ任ス
- 四 滿洲國ハ皇國トノ不可分關係ヲ益鞏化シツツ自存圈ノ確立ヲ主眼トシ重要基礎産業ノ急速ナル整備發展ヲ圖ル
- 五 支那ハ日滿ト協力シ資源ノ開發、經濟ノ復興ヲ圖ル而シテ北支蒙

②

疆ハ自存國ノ確立ヲ主眼トシ交通及重要産業ヲ開發シ中南支ハ物資
交易ノ圓滑、重要資源ノ開發ニ重點ヲ置キ東亞共榮圈ノ確立ニ寄與
ス但シ海南島及南支沿岸特定島嶼ハ自存國ノ前進據點トシテ特ニ其
ノ開發ニ努ム

六 自存國內ニ於ケル國防物資ノ組織的連帶貯藏ヲ圖リ以テ國防力ノ
保全ニ努ム

七 日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ
綜合計畫後援ヲ整備ス

第二 部門別方針

日滿文三國ノ産業分野、勞務、金融、貿易、交通等ノ政策ニ關スル極本方針ハ左ノ如ク概定ス

一 産業配分

イ 皇國ハ今後主トシテ精密工業、機械工業、兵器工業ニ重點ヲ置キ之カ副期的振興ヲ圖リ、其ノ他ノ重工業、化學工業及鑛業ハ自存圏内ニ於テ適地適業ノ主旨ニ依リ之ヲ振興ス

輕工業就中織維工業、雜工業ハ計畫的ニ整理シ逐次之ガ大陸移動ヲ行フト共ニ大陸資本ヘノ移管ヲ考慮ス

農業ニ關シテハ土地制度ヲ改革シ經營ノ科學的刷新ヲ爲シ農家ノ安定向上ヲ圖リ國民民主食ヲ確保スルト共ニ農村人口ノ定有ヲ策ス水産業ハ依然世界第一位ヲ保持スル如ク益々其ノ發展ヲ圖ル林政ノ統一刷新ヲ圖リ森林資源ノ合理的活用ト其ノ保護ヲ圖ル

口 滿洲國ハ今後特ニ鑛業及電氣事業ノ劃期的振興ヲ圖リ日滿間適地適業ノ主旨ニ依リ重工業及化學工業ノ振興ニ力ムルト共ニ重工業原材料ヲ皇國ニ供給ス尙機械工業並兵器工業ハ國防上ノ要求ヲ充足スル限度ニ於テ之ヲ興ス

輕工業ハ國內ノ需要ニ適應シ之ヲ興ス
農業ニ付テハ其ノ日滿支ノ食料飼料補給基地タルト世界ニ對スル特種農業資源ノ供源タルニ鑑ミ農地ノ開拓、農法ノ改善合理化ヲ行ヒ徹底的ニ農產物ノ増産ヲ期ス

尙農業開發ニ當ツテハ皇國農業開拓民ノ入植ヲ促進シ、其ノ中核ヲラシム

製鹽業、畜産並林業ニ付テモ右ニ併行シ之カ劃期的振興ヲ圖ル

ハ 支那ハ今後鑛業、製鹽業ノ劃期的振興ヲ圖リ工業原料ノ大量生産ヲ行ヒ日滿經濟建設ノ基礎確立ニ寄與スルト共ニ適地適業ノ主旨ニ依リ一部重工業及化學工業ヲ建設シ日滿產業ヲ補強ス

輕工業ニ付テハ皇國産業ノ發展階梯ニ照應ヲツツ相互ノ調整ヲ圖
リ之カ土着資本ヲ中心トスル發展ヲ圖ル
農業ニ付テハ特ニ基礎的施設ノ整備ニ力メ農業經營ノ改善、合理
化ヲ圖リ國民主食ノ確保ニカムルト共ニ棉花及特産物ノ増産ヲ圖
ル

3

二 勞 務

國防經濟ニ於ケル國民ノ勞務及技術生産性ノ地位ノ重要性ニ鑑ミ勞務技術ノ體制ニ劃期的革新ヲ加フルト共ニ民族協同ノ基礎ノ上ニ日滿支勞務計畫ヲ確立シ立地の統制竝ニ再配置ヲ爲ス

イ 皇國ハ勞務技術ノ新體制ヲ確立シ勞務者ニ心身ノ練成、科學教育ノ振興、勞働生産性ノ高度化、技術者及技能者ノ養成ニ力ムルト共ニ滿支經濟建設ノ指導援助ヲナス

ロ 滿洲國ハ産業開發ニ必要ナル技術者及技能者ヲ皇國ニ求ムルト共ニ自國內ニ於テモ之カ養成制度ヲ確立ス

内 鮮人開拓民ノ計畫的入植ヲ圖ル、一般勞務者ニ付テハ北支勞務者ノ計畫的入滿ヲ圖ルト共ニ國內ヨリノ充足方策ヲ確立シ特ニ鑛工業生産ニ於ケル勞務管理ノ刷新確立ニ努ム

ハ 支那ハ産業開發竝ニ經濟復興ニ必要ナル技術者及技能者ヲ皇國

ニ求ムルト共ニ自國內ニ於テモ之ガ養成ニ努ム
一般勞務者ニ付テハ其ノ安定向上ノ方策ヲ講ズルト共ニ滿洲國產
業開發ニ必要ナル供給ヲ爲ス

(7)

三 金融

國防經濟完遂ノ爲ニハ金融ノ基礎ヲ回收ノ確實性ニノミ置クコトナク國家トシテ所要ナル物資ノ賈及量ノ確保ヲ可能ナラシムルコトヲ主眼トスル如クニ金融理念ノ轉換ヲ行フ

イ 日滿支ヲ通スル産業計畫ニ照應シ之カ實施ヲ可能ナラシムル資金計畫ヲ樹立シ且之ヲ實行スヘキ金融機構ヲ整備ス

ロ 今後技術ノ進歩産業分野ノ設定等ニ件ヒ企業施設ノ轉換ヲ要スルモノ多カルベキニ顧ミ又國防物資ノ組織的連帶貯藏ヲ行フニ應

ジ之ガ爲ノ金融上ノ仕組ヲ整備ス
ハ 資金ノ調達ハ原則トシテ三國ノ蓄積ニ依ルコトトシ之ガ爲各國

ニ於ケル蓄積ノ増加及其ノ活用ヲ圖ル但シ今後當分ノ間國防生産力充實ノ爲メノ資金ハ皇國ヨリ之ヲ援助ス尙策距新秩序建設ノ主旨ニ反セサル限り外國資本ノ利用ヲ圖ル

5

ニ

外國爲替ニ付テハ之ガ統制ノ目標ヲ海外拂ノ節約ノミニ置クコトナク外國ヨリスル國防物資ノ獲得ヲ確保スルコトヲ目標トシ外國爲替資金ハ日滿兩國ハ共同ニ之ヲ運用シ支那ニ付テモ能フ限り日滿ト綜合的ニ運用スル如ク措置ス尙進ンテ皇國ヲ東亞共榮圈ノ金融及決濟ノ中心地タラシムル様施策ス

ホ 日滿支三國間ニハ國際決濟上所要ノ協定ヲ爲シ三國經濟ノ互助連關性ヲ強化ス

ヘ 支那ニ於ケル幣制ニ付テハ皇國ノ指導性ヲ保持スルコトヲ原則トシテ情勢ノ推移ニ應ジテ善處ス

四 交 易

從來ノ商業的貿易理念ヲ改メ皇國ヲ中心トスル東亞共榮圈ヲ一體トセル生産經濟主義ニ基ク貿易政策ヲ確立シ世界經濟ニ於ケル其ノ地歩ヲ確保ス

イ 日滿支三國間ニ於テハ相互ニ必要ナル物資ノ優先的交流ヲ圓滑確實且敏活ナラシム

ロ 對第三國又ハ他ノ集團トノ關係ニ於テハ日滿支一體トシテ物資ノ交易ヲ國別又ハ集團別ニ確立シ日滿支ノ生産ニ必要ナル物資ノ獲得ヲ確保シ内部的ニ之ガ配分調整ヲ圖ル

ハ 日滿支以外ノ東亞共榮圈内ノ諸地域トノ關係ハ相互ニ優先的ニ必要物資ノ確保ヲ目的トスル貿易協定ヲ爲シ進ムテ日滿支ト一體的關係ニ立ツ如ク指導ス

五 交 通

日滿支經濟ノ一體化ヲ促進スルト共ニ國防上ノ要求ニ合致セシムル爲メ、三國相互間ノ交通、通信關係ヲ飛躍的發展セシムベク船舶、港灣、鐵道ノ整備擴充ヲ圖ルト共ニ、海陸運輸施設ノ有機的連絡ヲ促進シ、航空ノ一元的統制連絡、電氣通信施設及放送施設ノ整備擴充等ニ努ム尙大腔ニ於ケル交通施設ノ劃期的擴充ヲ期ス

イ 皇國ハ日滿支間交通上ニ於ケル指導的的使命ヲ充足スルト共ニ東亞ノ海運ニ絶對的優位ヲ占メ更ニ進ンデハ世界的發展ヲナス爲メ日本船舶ノ飛躍的増加ヲ圖ル

ロ 滿洲國ニ於テハ國防上並ニ產業開發計畫ノ促進ノ見地ヨリ急速ナル交通通信施設ノ擴充ヲ圖ル

ハ 支那ハ經濟ノ復興並產業開發促進ノタメ交通通信施設ノ擴充ヲ圖ルト共ニ内河水運ノ發達ニ力ム

北支蒙疆ニ於ケル交通通信ニ關シテハ國防上ノ見地ヨリ日滿トノ

關係ヲ特ニ緊密ナラシムルト共ニ急速ナル其ノ擴充ヲ圖ル
ニ 東亞ニ於ケル交通通信ノ自主的地位ヲ確保スル爲第三國權益ヲ
逐次我勢力下ニ把握スルコトニ努ム

大日本帝國政府

先刻 佐藤書記官ヨリ 御電話アリニル件

二付 赤鉛筆 記入 五点ヲ 閣議 保存

御訂正 被下 爲 御難申上候

尚 各省ニ 付ル 通知用トシテ 井 部別便ヲ

以テ 御送付 給候

企画院 秘書官

村上 一

佐野 理事官 殿

(國定規格B5(182x257))

二二

閣中第三三一號

案起

昭和十五年十月十六日

閣議決定

昭和十五年十月十九日施行

昭和十五年十月九日

內閣總理大臣 **友**

內閣書記官長

內閣書記官

內閣書記官

外務大臣

友

陸軍大臣

友

文部大臣

橋

遞信大臣

橋

厚生大臣

友

內務大臣

海軍大臣

友

農林大臣

友

鐵道大臣

友

勸業大臣

友

大藏大臣

友

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

友

別紙企畫院總裁上申

第二次歐洲大戰ニ於テハ交戰國並ニ

中立國中主要國、戰時對策研究ニ
関スル件

右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十五年十月十九日

内閣書記官長

企画院總裁宛

依命通牒

昭和十五年十月十六日上申（陸軍省上申）第
二次歐洲大戰ニ於ケル交戰國並ニ中立國
中主要國ノ戰時對策研究ニ関スル件
上申ノ通閣議決定相成候事限於
第二次世界大戰ニ於ケル交戰國並ニ中立國中

(二)

昭和十五年十月十六日

興亞院總務内閣書記官長

各省長官

法制局長官

(55(444))

對滿事務局總裁

宛(方通)

內閣情報部長

興亞院總裁

內閣書記官長

總力戰研究所長

(二)

第二次歐洲大戰ニ於テハ交戰國並ニ中立國中

主要國ノ戰時對策研究ニ關スル件別紙ノ

通閣議決定相成候條依命此段及通

譯文候條大輝ニ依テハ交戰國並ニ中立國

昭和十五年十月十六日上申(第一號)第一號

(白井勝)

企畫院上申第二二九號

昭和十五年十月十六日

企畫院總裁 星野直樹



內閣總理大臣 公爵 近衛文麿 殿

第二次歐洲大戰ニ於ケル交戰國竝ニ中立國中主要國ノ戰時對策研究ニ關スル件

第二次歐洲大戰ニ於ケル交戰國竝ニ中立國中主要國ノ戰時對策ヲ
檢討シ國防國家體制ノ確立ニ必要ナル調査ヲ爲スト共ニ、總力戰
研究ノ參考ニ資サンガ爲別紙ノ通閣議決定相成様致度
右本院官制第一條第一項第一號ニ依リ此段及上申候

主任 第一部 玉置 調查官

內閣

秘

第二次歐洲大戰ニ於ケル交戰國並ニ中立國中主要國ノ戰時對策研究ニ
關スル件

一、目的

第二次歐洲大戰ニ於ケル交戰國並ニ中立國中主要國ノ戰時對策ヲ各
方面ヨリ検討シ一ハ以テ我國ガ直面セル國防國家體制ノ確立ニ必要
ナル資料ヲ整備スルト共ニ、他方總力戰研究ノ參考ト爲サントス

二、研究ノ機構

研究ハ企畫院及總力戰研究所ガ中心トナリ關係各廳並ニ民間諸機關
ノ協力ニ依リ之ヲ行フ

三、研究ノ方針

- (1) 研究ハ凡テ皇國トノ關聯ニ重點ヲ置キ緩急順序ヲ圖ルコト
- (2) 研究ハ各國毎ニ行フト同時ニ有機的綜合的タラシムルコト

(3) 研究ニ當ツテハ精粗ヲ克ク勸察スルコト
四 本件ニ關スル經費ニ付テハ適當ナル措置ヲ講ズルモノトスルコト

參考

研究要目

一、資料ノ整備並ニ研究ニ當リテハ別紙研究ノ方針ニ從フモ特ニ重點ヲ置クベキ事項左ノ如シ

但シ軍事、外交ニ關スル問題ヲモ含ム

イ、帝國國策樹立ノ資タル事項

ロ、帝國ノ戰時經濟圈結成ノ資タル事項

ハ、各國ノ總力戰遂行ニ關スル事項

ニ、帝國ノ假裝敵國ノ國力判斷ニ關スル事項

三、右事項ノ研究ニ當リ各廳ノ協力を求ムベキ重要ナル諸點左ノ如シ

(一) 第二次歐洲大戰ヲ契機トスル世界ニ於ケルプロツク經濟圈相互ノ關係

(1) 歐洲經濟圈ニ關スル調査研究

イ、新マルク通貨ノ問題

ロ、産業ノ地域的分業ノ問題

ハ、地域的分業ヲ聯絡スル紐帶（交通、運輸、通商等）

ニ、歐洲經濟圏ヲ統制スル政治、經濟機構（被征服國ノ政治機構改革ノ問題ヲ含ム）

ホ、占領地ニ對スル經濟的及社會的工作

(2) 歐洲經濟圏ト米洲經濟圏トノ關係ニ關スル調査研究

（特ニ英國敗退後ノ英米聯合ニ依ル政治形態ノ問題ヲ含ム）

・ 小 汎米主義ニ關スル問題

中、中南米市場爭奪問題

ハ、合衆國ヘノ金集中ヨリ生ズル經濟的影響ト世界金融市場爭

奪

ニ、米洲トノ貿易關係

(3) 歐洲經濟圏ト東亞經濟圏トノ關係ニ關スル調査研究

イ、支那ニ於ケル舊歐洲諸國ノ勢力關係ノ變化

ロ、舊歐洲諸國ニ屬セシ植民地（蘭印、佛印、印度其ノ他）ト

本國トノ關係ノ問題

ハ、東亞經濟圏ト歐洲經濟圏及米洲經濟圏ノ貿易關係

(4) ソ聯邦經濟圏ニ關スル調査研究

イ、占領地域ヲ包含スル社會主義經濟圏形成ノ問題（ソ聯ノ對
占領地工作）

ロ、歐洲經濟圏トソ聯トノ關係（ソ聯ノ政治、經濟的發展ヨリ
生ズル歐洲經濟圏トノ對立及關聯ノ問題）

ハ、東亞經濟圏ヲソ聯トノ關係（特ニソ聯ノ對第三國殖民地ニ
對スル政策ヲ含ム）

ニ、米洲經濟圏トソ聯トノ關係（特ニ合衆國トノ接近ノ可能性）

(二) 政治機構

(1) 各國ノ軍事及産業總動員機構ノ整備ニ應シテ變更又ハ整備擴
充セラレタル政治機構及其ノ運用ノ問題

(2) 議會制度ノ改變、其レニ代ルヘキ國政審議及ヒ立法機關

(3) 戰時特別法令及緊急法令等

(三) 經濟機構、產業總動員機構

(1) 戰爭遂行ヲ目的トスル各國ノ産業總動員

(2) 植民地及屬領ノ産業機構ト本國ノ産業機構トノ關係

(3) 各國ノ國土計畫ト産業總動員機構トノ關係

(四) 財政及金融

(1) 國富及國民所得ノ問題

(2) 稅制及公債政策

(3) 國防費及行政費

(4) 資金統制及通貨制度ノ問題 (特ニ貯蓄獎勵及資本供給力ノ問題)

題)

(5) 金融機關ニ對スル統制

(6) 資金計畫、物動計畫、財政計畫トノ調整方策

(五) 生産及配給

(1) 國防資源ノ賦存狀況ト不足資源ノ填補方策ト特ニ代替資源ノ問題)

(2) 生産擴充ノ方策

(3) 配給ノ統制

(4) 轉失業對策

(六) 貿易

(1) 貿易及貿易管理

(2) 爲替及爲替管理

(3) 對第三國貿易及植民地貿易

(4) 貿易擾亂及貿易封鎖

(七) 交通

(1) 運輸交通ノ統制

(2) 特ニ船舶管理及海運對策

(3) 戰爭ニ因ル破壞及補充狀況

(V) 物價

- (1) 生產擴充並ニ國民生活安定施策卜物價對策
- (2) 物價統制卜經濟組織卜ノ關係
- (3) 物價統制違反ニ對スル處罰
- (4) 海外物價卜國內物價卜ノ調整
- (5) 物價ノ變動卜戰時國民生活ノ變化及其ノ對策

(VI) 人的資源

- (1) 人口增加或ハ減少卜其ノ對策
 - (2) 各層各階級ノ人口分布ノ變化卜對策（特ニ兵力卜軍需產業人口ノ構成内容及給源）
 - (3) 勞働力動員ノ問題
 - (4) 職業教育、技術教育、再教育、熟練工養成等ノ問題
- (H) 宣傳及謀略

(1) 對內宣傳

(2) 對外宣傳及謀略

右研究ノ期間、内容、取扱フベキ資源等ニ關スル具体的問題ハ各廳ト別途協議ス。尙外務省、陸海軍省、拓務省ニ對シテハ右ノ外一般的ニ協力ヲ要請ス

閣甲第三三四號

案起

昭和十五年十月二十二日

閣議決定
昭和十五年十月二十二日施行

昭和 年 月 日

內閣總理大臣 變

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

近

陸軍大臣

近

文部大臣

橋

遞信大臣

若

厚生大臣

原

內務大臣

近

海軍大臣

近

農林大臣

若

鐵道大臣

近

勸業大臣

近

大藏大臣

近

司法大臣

重

商工大臣

近

拓務大臣

近

別紙企畫院總裁上申

中小商工業業者ニ對スル對策ニ関ス

通閣議決定相成候

通牒案 (一)

昭和十五年十月二十二日

内閣書記官長

各省大臣(外務、司法、及文部、陸、海)

法制局長官

對滿事務局長

興亞院總裁

中、小、地、山、林、業、者、二、種、之、二、種、策、一、關、心、并、思

宛(各通)

中小商工業者ニ對スル對策ニ関スル件別
紙ノ通關議決處 相成候條 依命此
段及通關候

法三(附取) 法三(附取)

各有大(附取)

也關議決候

昭和四年十一月廿五日

司 長 兼 次 長

一 通關議決候

(白井納)



企畫院上申第二四四號

昭和十五年十月二十一日

企畫院總裁 星野直



內閣總理大臣 公爵 近衛文麿 殿

中小商工業者ニ對スル對策ニ關スル件

中小商工業者ニ對スル對策ニ關シ別紙ノ通閣議決定相成様致度本院
官制第一條第一項第一號ニ依リ此段及上申候

主任 第三部 內書記官

內

閣

中小商工業者ニ對スル對策

物資ノ不足、各種統制ノ強化、價格ノ公定、輸出ノ不振等ニ因リ中小商工業部門ニ於テハ從來ノ活動範圍ノ縮少並機能ノ變革ヲ餘儀ナクセララルモノヲ生ズベシ、固ヨリ之ニ對シテハ代用原料ノ使用、生産品ノ規格變更、中小商工業ノ組織化、時局産業ヘノ轉換、下請制度ノ利用等ヲ圖ルト共ニ政府ノ損失補償擴充ノ下ニ庶民金庫、商工組合中央金庫等ノ活用ニ依リ中小商工業者ニ對スル金融緩和ノ方途ヲ講ズル等各般ノ對策ヲ實施シ及ブ限リ失業者ヲ出サザル様努ムベキモ尙中小商工業者並之ガ從業者ニシテ轉業ノ止ムナキニ至ルモノハ相當多數ニ上ルモノト豫測セララル、依ツテ此ノ際政府ハ左ノ要旨ニ依ル轉業對策ヲ急速實施セントス

一方 針

(一) 轉業ハ出來得ル限リ官廳ノ強制的措置ヲ避ケ同業者ノ組合ノ申

合セ等ニ基ク自治的措置ニ據ラシメ政府ニ於テハ之ニ對シ必要ナル指導ヲ加フルコト

(二) 轉業（從業者ヲ含ム）ニ依ル犠牲ヲ緩和シ以テ轉業ヲ容易且迅速ナラシムルト共ニ國民勞務再編成ノ見地ヨリ之ガ勞働力ヲ最モ緊要ナル方面ニ再配置スベキ十全ノ施設ヲ講ズルコト

二 施設

(一) 人ノ問題

イ 轉業問題ノ處理ニ當リテハ轉業者ニ對シ失業者タルノ失望感ヲ與フルコトナク國策ノ必要ニ基キ時局下緊要ナル方面ニ動員配置サルルノ榮譽ト如何ナル勞働ヲモ厭ハザルノ覺悟トヲ抱カシムルヲ目途トスルコト

ロ 轉業ニ付テハ年少者、兼業者等轉業容易ナル者ヲ先ニシ年長者、專業者等轉業困難ナル者ハ多少能率低キモノト雖成ルベク現在ノ業務ヲ繼續セシムルコト

ハ 轉業者ノ轉換先ハ概ネ次ノ如クスルコトトス

1 軍需産業

2 生産力擴充及附帶産業

3 滿洲開拓民（中小工業開拓民ヲ含ム）

4 支那、南洋其ノ他海外ヘノ移住進出

5 農業生産力擴充（國又ハ公共團體營開墾及歸農）

6 國防上必要ナル土木事業

ニ 轉業ノ相談ニ應ジ適切ナル勸奨指導ヲ加フベキ國民職業指導

所ヲ設置スルコト（別案第一）

ホ 轉業者ヲ收容シテ精神的肉體的基本訓練ヲ行フベキ國民勤勞

訓練所ヲ設置スルコト（別案第二）

(二) 物ノ問題

轉業者ノ財産處分負債整理等ニ對スル便宜ヲ供與シ以テ其ノ犠牲ヲ尠少ナラシメ轉業ヲ容易ナラシムルコト

之ヲ爲國民更生金庫ヲ設クルコト（別案第三）



別案第一

國民職業指導所設置案

- 一、現在道府縣ニ存スル職業紹介所、中央商工相談所ヲ統合シテ國民職業指導所トスルコト
- 二、國民職業指導所ニ於テハ職業轉換ノ勸奨、相談、指導、就職者ノ紹介、斡旋、其ノ他勞務ノ配分ニ關スル事務ヲ有機的一體トシテ行フモノトス
- 三、國民職業指導所ノ事務ニ付テハ知事ヲ責任者トシ其ノ業務執行ヲ圓滑適正ナラシムル爲國民職業指導員ヲ置クモノトスルコト
- 國民職業指導員ハ其ノ地方ニ於ケル商工業其ノ他ノ産業及社會事業ニ付知識經驗ヲ有スルモノヨリ選任スルコト
- 四、國民職業指導所ハ厚生省ノ主管トシ中小商工業ノ轉業ニ關スル事務ニ付テハ關係各省ト協力シテ之ヲ行フコト



別案第二

國民勤勞訓練所設置案

- 一 國民勤勞訓練所ハ新ニ設立スル特別ノ團體ニ委託シ經營セシムル
モ之ニ要スル費用ハ國ニ於テ負擔スルコト
 - 二 差當リ東京、大阪ノ二ヶ所ニ設置スルコト
 - 三 收容期間ハ三ヶ月以内トスルコト
 - 四 訓練ハ被訓練者ヲ原則トシテ合宿セシメテ之ヲ行ヒ家族ニ對スル
生活手當ヲモ考慮スルモノトスルコト
 - 五 訓練修了迄ノ間ニ於テ國民勤勞指導所ト協力シ適職ノ判定其ノ俾
指導ヲ行フモノトスルコト
 - 六 國民勤勞訓練所ノ主管ハ厚生省トスルコト
- 尙

1 軍需産業及生産力擴充産業ヘノ轉換ニ對シテハ職業補導所ノ活

用ヲ圖ルコト

2

滿洲開拓民ニ對シテハ滿洲開拓民訓練所ヲ活用スルコト

海外

へノ移住進出者ニ對シテハ特別ノ訓練施設ヲ考慮スルコト

3

農業生産力擴充へノ轉換ニ對シテハ修練農場等ヲ活用スルコト

秘

別表第三

國民更生金庫設置案

- 一 本金庫ハ時局ノ要請ニ應ジ得廢業ヒントスル者ノ資産、負債ノ整理ヲ促進スルヲ以テ目的トス
- 二 本金庫ハ東京ニ本社ヲ置キ全國樞要ノ地ニ支社、出張所ヲ設ク
- 三 本金庫ハ政府、地方公共團體等ヲ以テ出資者トシ出資金額額圖トス
- 本金庫ハ債券ヲ發行スルモノトシ右債券ニ對シテハ政府之ガ元利支拂ノ保證ヲ爲スモノトス
- 本金庫ハ預金部其他ノ金融機關ヨリ資金ノ借入ヲ爲スコトヲ得
- 四 本金庫ノ職員ハ固有職員ノ外各地毎ニ地方商工職員、預金部支部職員及銀行、信託會社、商工組合中央金庫、庶民金庫、信用組合、商業組合、工業組合等ノ職員ニシテ地方ノ事情ニ通曉シ且ツ資産ノ

評價並ニ處分ニ知職經驗ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ

五 本金庫ハ特設業者ヨリ其ノ事業用財産、不動産ノ信託讓渡ヲ受ケテ之ヲ管理、處分シ又右資産評價額ノ限度ニ於テ負債償還資金、特設資金等ノ貸付ヲ爲スコトヲ得

六 特設業者本金庫ニ資産ノ信託讓渡ヲ行ヒ資金ノ融通ヲ受ケントスル際ハ原則トシテ所屬組合ノ承認ヲ受クルモノトス（組合ニ於テ政府ノ監督ノ下ニ監理計畫ヲ備テタルモノニ限リ本金庫ニ於テ引受クルモノトス）

七 所屬組合ニ於テ監理計畫ヲ備ツルニ際シテハ共助ノ原則ニ依リ特設業者ニ對シ組合ヨリ相當額ノ給付ヲ行フ程前ヲ執ルモノトス

八 本金庫ガ事業用資産ノ信託讓渡ヲ受クル場合ニ於ケル評價ハ一應營業ヲ繼續スルモノトシテノ安ヨナル標準ニ依ラシムルコトトス但七ニ依リ組合ヨリ給付ヲ受クル場合又ハ本人ノ資産状況等ニヨリ適宜ニ之ヲ査定スルモノトス

九 信託ヲ受ケタル資産ノ評價額ト處分價格トノ差損額ハ政府之ヲ補

填ス

十 資産處分ヲ了ヘテ尙ホ殘存スル償務ニ付テハ適宜本金庫ニ於テ肩

代リヲ行フモノトシ之ニ依リ生ズル損失ハ政府之ヲ補償ス但此ノ場

合償補者ニモ相當ノ犠牲ヲ負擔セシムルモノトス

十一 本金庫ノ毎年度收支差額並所要利子ハ政府ヨリ之ヲ補給スルモ

ノトス

十二 本施設ニ伴フ國庫ノ負擔ヲ可及的輕減スル爲メ關係組合等ヨリ納

付金等ノ徵收ヲ考慮スルコト



閣甲第三四三號

案起

昭和十五年十一月五日

閣議決定

昭和十五年十一月五日施行

昭和十五年十一月五日

內閣總理大臣 **齋**

內閣書記官長

內閣書記官



外務大臣

齋

陸軍大臣

齋

文部大臣

齋

遞信大臣

齋

厚生大臣

齋

內務大臣

齋

海軍大臣

齋

農林大臣

齋

鐵道大臣

齋

勸業大臣

齋

大藏大臣

齋

司法大臣

齋

商工大臣

齋

拓務大臣

齋

別紙企畫院總裁上申

對南方發展施策ニ関スル件

右閣議ニ供ス

通牒案

(一)

昭和十五年十一月五日

内閣書記官長

外務・大藏・陸軍・海軍

農林・商工・通信・拓務各

大臣宛(各通)

對南方發展施策ニ関スル件

新情勢ニ即應スベキ對南方發展ニ関スル
左記施策事項別紙、通閣議決定相
成候條依命此段及通牒候

記

一、對^サ蘭印經濟發展ノ爲ノ施策

一、對蘭印物資取得並ニ貿易應急方

策要領

一、南方通信政策要綱

一、南方海運對策要綱

1. 南北海關巡檢要圖

1. 南方圖(海防)巡檢要圖

昭和十五年五月五日

1. 總務部(海防)巡檢要圖
內閣書記官長

1. 總務部(海防)巡檢要圖
總務部

時 依命通牒

昭和十五年十月八日上申 (在書院上申 第一四五號) 對南

方發展施策ニ関スル件上申、通閣議

決定相成候

南北海關巡檢要圖

主任 第一部 遠藤 調査官

企畫院上申第二四五號

昭和十五年十月二十八日

企畫院總裁 星野直樹



內閣總理大臣 公爵 近衛文麿 殿

對南方發展施策ニ關スル件

新情勢ニ即應スベキ對南方發展ニ關スル左記施策事項別紙ノ通閣議決定相成様致度

右本院官制第一條第一項第一號ニ依リ此段及上申候

記

- 一 對蘭印經濟發展ノ爲ノ施策
- 一 對蘭印物資取得並ニ貿易應急方策要領
- 一 南方通信政策要綱
- 一 南方海運對策要綱

內閣

極秘

對蘭印經濟發展ノ爲ノ施策

世界新秩序ノ進展ニ伴フ經濟圈發生ノ必然性竝ニ日獨伊三國條約ニ基ク皇國ノ蘭印ニ於ケル優位ヲ確認シ共存共榮ノ大局的立場ニ基キ速ニ蘭印ト經濟的緊密化ヲ圖リ以テ其豐富ナル資源ヲ開發利用シ皇國ヲ中心トスル大東亞經濟圈ノ一環タル實ヲ舉ゲシメンコトヲ期シ、差當リ左記要領ニヨリ施策スルモノトス

一 蘭印經濟ヲシテ歐米經濟プロツクニ依存セル狀態ヲ清算セシメ大東亞經濟圈ノ一員タル立場ヲ取ラシムルコト

二 現在邦人ノ經濟的活動ヲ阻害スル諸種ノ制限的措置（別紙參考資料）ヲ撤廢又ハ緩和シ、邦人ノ經濟的活動ヲ他ニ優先シテ自由活達ナラシムル如ク努ムルコト

三 皇國ノ必要トスル重要物資ヲ可及的ニ大東亞圈內ニテ確保シ以テ英米ヨリ資源的獨立ヲ圖ルタメ蘭印ニ對シ共同開發ヲ提議スルコト。

要スレバ適當ナル島嶼地域ノ租借又ハ買収ヲナスコト

四 皇國ノ必要トスル重要物資ノ供給確保ニ關シテハ先ニ蘭印側ノ保障ヲ取り付ケタルモ更ニ此等物資ノ種類及數量ノ増加ニツキ蘭印ノ全意ヲ求ムルコト

尙進ミテハ重要物資特ニ蘭印ノ世界的獨占商品タル錫、ゴム、規那等ヲ皇國ノ指導ニヨル貿易管理ノ實現ニ努ムルコト

五 共存共榮ノ實ヲ舉ゲルタメ可及的土着民ノ收益トナル蘭印産農産物ノ買付ヲナシ土着民ノ購買力ヲ培養ス、

コレガ爲蘭印側ニ於テハ可及的我が國ノ要請ニ應ズル如ク農業ヲ誘導スルコト

六 皇國製品ノ對蘭印輸出増進ニツキ特ニ協力提携ヲ求ムルコト

七 將來他ノ大東亞諸地域ヲ併セ皇國ヲ中心トスル大金融圈ノ設定ヲ

目標トシ、蘭印トノ新金融關係ノ設定ヲ付テモ之ガ一環タラシムル如ク努ムルモノトス、但シ蘭印自體ハ之ヲ圖地域トナスコトヲ目的トセザルコト

蘭印ニ於ケル爲替管理ヲ皇國ノ指導下ニ置ク如ク努ムルコト
差當リ蘭印ニ於ケル爲替管理ノ運用ヲ邦人ニ對シ寛大ナラシムルト共ニ蘭印ノ銀行等ヲシテ本邦側ニ對シクレチツトノ設定其ノ他極力金融上ノ便誼ヲ供與セシムルコトトス

八、交通及通信ニ關シテハ大東亞全局ノ指導的地位ヲ確保スル一環トシテ左ノ特殊權益ノ設定ニ努ムルコト

イ、沿岸貿易權、不開港入港權及港灣設備ノ經營及利用權

ロ、海底電線ノ陸揚及運用權、國內通信事業經營ニ對スル參加權、

ソノ他ノ通信權

ハ、定期航空路ノ新設及航空保安施設ノ設置權

九、水産業ニ關シテハ南方ニ確固タル地歩ヲ建設スルタメ漁船ノ増加、

漁獲物輸入港制限ノ撤廢、漁業根據地ノ設置、其ノ他水産業ノ經營ニ伴フ權益ノ獲得ニ努ムルコト

十、蘭印ニ於ケル第三國權益ニ關シテハ新規ノ設定ヲ許サズ又既存ノモノニシテ皇國ノ發展ニ障害トナルガ如キモノハ之ヲ驅逐スルガ如ク努メシムルコト

十一、蘭印ノ對内外經濟政策ノ樹立及實施ニ參與シ皇國トノ經濟的提携ヲ指導強化スル爲蘭印側ニ邦人ヲ加ヘタル經濟建設委員會、其他適當ナル機關ヲ設ケシムルコト

貿易、金融、稅制、關稅、第三國トノ經濟協定、企業、交通、通信等ニ關シテハ右機關ヘノ諮問ヲ要スルモノトス

十二、在蘭印邦人輸入商ヲ經濟省ノ諮問委員會ニ參加セシムルコト

十三、蘭印ニ於ケル新聞其他刊行物ノ對日惡論調ニ對シ徹底的ナル取締

ヲ要求スルト共ニ邦人ノ新聞發行ニ對スル自由ヲ確保セシムルコト
十三、在任華僑ノ援將抗日態度ニ對シテハ蘭印當局ノ嚴重ナル取締ヲ要
求スルト共ニ一方ソノ經濟的地位ニ鑑ミ大局的立場ヨリ華僑ノ組織
及資力ノ利用ヲ策スルコト

十四、皇國ノ經濟的發展ヲ期スル爲、土着有力者ヲ皇國ニ招致シ又ハ皇
國ノ眞姿ヲ宣傳正解セシムル等諸般ノ處置ヲ講ズルコト

十五、經濟施策ハ大東亞共榮圈確立ノ大局的立場ニ立脚スルコトトシ、
皇國ノ利益伸張ト土民ノ民生ト調和スル如ク努ムルコト

極秘

對蘭印物資取得並ニ貿易應急方策要領

蘭印ヨリノ物資取得ノ方策トシテハ物動計畫ノ實施確保ヲ中心トスル
應急方策ト資源ノ開發ニ重點ヲ置ク恒久方策トニ分ツテ考究スベキモ
ノナル處差當リハ應急方策トシテ左ノ措置ヲ講ズルノ要アルモノトス
應急方策

一、輸出物費ニ付對日供給ヲ優先的ニ確保スルコト

蘭印ニ於テ生産セラルル物資例ヘバ石油、錫、ゴム、ボーキサイ
ト、ニツケル鎳、クローム鐵鎳、マンガン鎳、屑鐵其ノ他ノ屑金
屬、工業鹽、ヒマシ、キナ皮、玉蜀黍等ニ付テハ本邦ニ對シ其ノ
必要量ノ優先的供給ヲ爲スコトヲ蘭印政府ニ保證セシムル等ノ措
置ヲナスヲ緊要トス就中石油ノ確保ニ付テハ特ニ重點ヲ置クモノ
トス

尙對日輸出ヲ阻害スル如キ爲替並ニ貿易上ノ障害的措置ヲ撤廢セ
シムルコトヲ要ス

二

本邦側ノ物資獲得ニ付テハ之ニ必要ナル本邦物資ノ輸出計畫及
資金調達計畫ヲ策定シ其ノ實施ヲ確保スルコト

蘭印物資ノ取得ヲ容易ニシ對日依存性ヲ強化スル爲ニハ此ノ際我
國ヨリノ輸出ヲ劃期的ニ促進スル如ク貿易方策ヲ確立スル要アリ
之ガ爲ニハ差當リ左ノ措置ヲ講ズルヲ緊要トス

(イ) 輸入制限令又ハ爲替管理令ニ依リ輸入制限ヲナスモノニ付テ
ハ日本品ニ相當ノ割當ヲ附與セシムルコト

(ロ) 在蘭印邦商ノ輸入割當比率ヲ相當量増加セシムルト共ニ第三
國品ノ輸入義務ヲ免除セシムルコト

(ハ) 輸入制限措置ニ關スル諮問委員會ニ相當數ノ在蘭印邦商ヲ參
加セシムルコト

(ニ) 本邦ヨリノ輸入品ニ對スル關稅ノ負擔ヲ輕減セシムルコト

(ホ) 統制アル輸出ヲナス爲ニ適當ナル措置ヲ講ズルコト

三 輸送船腹ノ圓滑ナル手配ヲ期スルコト

現下ニ於ケル船腹逼迫ノ實情ニ鑑ミ、蘭印ヨリノ對日供給物資ノ確保ヲ期スル爲ニハ船腹ノ手當ニ付充分ノ策ヲ講ズルノ要アリ、特ニ油槽船ノ手配ニ付テハ其ノ需給狀況ニ鑑ミ相當ノ困難ヲ伴フモノト思料セラルルガ故ニ更ニ不定期配船ノ増加、計畫輸送ノ徹底等ニ付萬全ノ措置ヲ講ズルモノトス

極秘

(參考資料)

蘭印ニ於ケル企業、入國及貿易等ニ關スル主ナル制限措置
一、企業關係

(1) 營業制限

左記營業ノ新設、擴張、移轉ハ經濟長官ノ許可ヲ要ス

(イ) 倉庫業、(ロ) 印刷業、(ハ) 紙卷煙草製造業、(ニ) 鑄鐵鍋製造工業、(ホ) 織布業、(ヘ) 製氷業、(ト) 護謨「スモーク」業、(チ) 精米業、

(2) 土地所有

土人以外ニハ和蘭人ト雖モ土地所有權ヲ認メラレス從テ土地ノ永
租借權ヲ獲得スル外ナシ

期限七十五年、面積、外領五千「ヘクタール」以内爪哇五百「バ
ウ」以内

(3) 農業

規那、ゴム、砂糖ハ輸出制限ノ關係上新企業ヲ認メス
新ニ土地ノ永租借權（政府所有地ニシテ原野ニ限ル）ノ許可ハ容易ナラス

(4) 鑛業

鑛業權所有資格ハ和蘭人ハ蘭印永住權者、蘭印法人ハ限ルルヲナス日本ノ權利獲得ハ頗ル困難ニシテ且權利ノ讓受モ容易ナラス

殊ニ政府ハ石油其ノ他重要鑛物ノ探掘權ヲ自ラ保留スルコトヲ得ル規定アリ現ニ各地方ニ於テ多數ノ重要鑛區ヲ保留シ居レリ而シテ右保留鑛區ヲ民間ニ開發セシムル場合ハ一々政府ト契約ヲ締結シ而モ之ニ對シ法律ノ認可ヲ必要トス。

(5) 林業

木材伐採ハ爲エハライセンスヲ必要トス

(6) 水産業

外國人ニハ沿岸漁業權ヲ認メス

日本人所有漁船ハ日本籍主義ニシテ營業所在地以外ニハ漁獲物ノ自由輸入ヲ認メス、且漁船ノ増加ヲ認メス

(7) 海運業

沿岸貿易ヲ認メス

一九三五年以來多數ノ海港ヲ外國船ニ閉鎖セリ

(8) 出版業

印刷業ハ營業制限アル外部人ノ新開其他出版業ニ對シテハ特ニ取締嚴重ナリ

三 入國關係

(1) 入國令ニヨリ日本人ノ新規入國數ハ普通ノ場合八百人

(2) 右ノ外外國人勤勞條令ニヨリ一々從業許可必要ナル爲現在日本人

ノ入國數ハ約二百人ヲ出テス。
三、貿易關係

(1) 輸入禁止

左記商品ハ特ニ經濟長官ノ許可アル場合ノ外輸入ヲ禁止ス
米、大豆、醬油、味噌、砂糖、

(2) 輸入制限品 (各別ノミナラス各輸入商ニ對シテモ實績主義ニヨ
ル割當制トシ而モ日本人ニ對シテモ第三國品ニ對スル輸入義務ヲ
課ス)

- (1) 「セメント」 (2) 麥酒 (3) 糸染「サロン」 (4) 晒綿布 (5) 未晒綿布
- (6) 鐵鍋 (7) 硝子類 (8) 玻璃鏡器 (9) 自轉車 (10) 電球 (11) 齒刷毛 (12) 刀物類
- (13) 「ランプ」 (14) 人造肥料 (15) 浴用「タオル」 (16) 綿毛布 (17) 陶磁器類
- (18) 衛生陶磁器 (19) 金物類 (20) 石鹼 (21) 綿縫糸 (22) 包裝紙 (23) 各種織物類
- (24) 既製衣類 (25) 自轉車「タイヤ」及「チューブ」 (26) 硫安

(3) 輸出禁止品

甘藷、「キナ」、「カボツク」其他種苗

(4) 輸出制限品

錫、「ゴム」、茶、砂糖、「カボツク」、「キナ」。

四 検閲關係

郵便、電信、及運送検閲ニ關シテハ目下日蘭印間ノ經濟關係緊密化ヲ阻害スルカ如キ諸種ノ取締規則アリ

極秘

南方通信政策要綱

南方諸地域ニ對シ自主的通信網ノ伸暢ヲ圖ルハ各般ノ對南方施策ノ先驅的且助成的條件タルニ鑑ミ左ノ方策ヲ講ズルモノトス

第一 南方諸地域ニ於ケル各主要地ヲ連絡スル海底線網ヲ別紙ノ如ク整備擴充スルモノトス、之ガ爲豫メ海底線ノ墾揚權、通信運營權等ノ通信權益ノ確保ヲ圖ルモノトス

第二 佛印支、蘭印等ニ於ケル國內通信及國際無線通信事業ニ對スル皇國ノ參加權ヲ確保スルモノトス、之ガ爲其ノ運營形態ヲシテ我が事業參加ニ便ナラシムル如ク誘導スルト共ニ我が通信技術並ニ國產通信機器ノ進出ヲ企圖スルモノトス

第三 氣象通信、航空通信等ニ付テハ各事業進出ノ要望ニ副ヒ得ル如ク適宜措置スルモノトス